

外国籍児童・生徒の教育環境の整備

1 教育機関の外国籍児童・生徒の受入態勢

TSMC進出を機に熊本県内で学ぶ外国籍の子どもたちが増えている。各教育機関は受入態勢を充実させており、英語で学ぶことができる環境の整備が進んでいる。

教育機関	内容
熊本大学教育学部附属学校	2025年度に小学校1年生の外国人児童5人を受け入れ。2026年度に小学校、2027年度に中学校に国際クラスを開設予定
九州ルーテル学院	2024年度にインターナショナルスクール小学部を開校。2026年度に中学校にグローバルコースを新設予定
熊本インターナショナルスクール	2025年度に授業を開始した高等部が、県内で初めて国際バカロレア機構プログラム実施校として認定
公立学校	TSMC駐在員子女の受入校である菊陽町の武蔵ヶ丘小・武蔵ヶ丘中、熊本北高校において、支援員や通訳を配置。

資料：各機関の報道資料などを基に作成

以降は会員専用ページにて公開しております。

2 TSMC周辺自治体の人口推移

ご覧頂くには、入会手続き後、会員専用ページより
総務省が8月に発表した住民基本台帳に基づく1月1日時点の人口でみると、TSMC熊本工場が立地する菊陽町の人口は増加していることがわかる。一方、日本人を含めた総人口でみると、2025年は菊陽町が減少に転じた。地価上昇に伴う住居費の増加などを背景に、人口流入に一服感が出ているようだ。

[ご入会はこちらから](#)

(入力は数分で終わります)

[会員の方はこちらから](#)